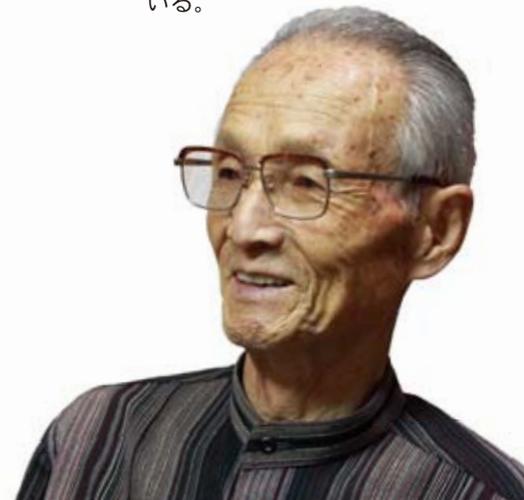


すま Smile いる

掛け替えのない「出会い」に 生かされて

Vol.91
三坂 ^{まさし} 仁さん
(周東町在住)

切り絵作家。今秋、米寿を記念して四国88力所、88作品の個展を開催。地元周東町の歴史や文化を伝えるふるさとかるたの絵札を手掛けるなど、さまざまな作品を作り続けている。



黒い紙の上に下絵を重ねてカッターで切り抜いて作る、黒が主役の切り絵。約40年にわたり、日本の風景や世界遺産、また金子みすゞや種田山頭火など、県内出身作家の詩をテーマに作品を作り続けているのが切り絵作家の三坂仁さんです。

20歳の頃、地元の前輩画家の勧めで油絵を描き始め、絵に興味を持ったと

▼丁寧にカッターを動かし、切り絵を作成する三坂さん



いう三坂さん。仕事の忙しさから絵から離れて15年近く経っていたある日、新聞の連載コーナーで切り絵を目にします。そのノスタルジックな絵柄に魅力を感じ「やってみたい」という強い衝動に駆られ、道具や本をそろえると独学で作品作りに取り掛かりました。

当時、職場で広報紙を作る話があり、表紙を三坂さんの切り絵でやろうということに。隔月発行の広報紙で、季節に合わせた図案を毎月一生懸命考え、作品を作りました。

「地元の人から『大変面白い。いつも次号を楽しみにしているよ』と声を掛けてもらい、楽しい仕事でした。また町のイベントや体育祭、音楽会、グループ活動のプログラムなどのイラストを頼まれるなど、切り

絵を通してたくさんつながりができました」と三坂さんは話します。

退職後は創作活動に専念し、数々の作品展に出品、入賞を重ねます。旅が好きで、絵の題材探しも兼ねて国内外を問わず旅に出ることが多いという三坂さん。今年88歳を迎えるにあたり、四国88力所を巡り88作品を制作する旅を計画。友人の協力もあり、2年前から今年にかけて四国に計5度通い、88の寺院を撮影・スケッチして作品を制作、今秋に個展で披露しました。

切り絵を始めて今年で44年目を迎え、制作した作品は千点を超えます。「今回の展示が集大成という気持ちでしたが、県内の作家との合同展示など、新しい話も出てきています。88年の生涯を振り返ると、多くの掛け替えのない出会いに感謝しかないという気持ちです。今後もこの気持ちを持ち続け、作品を作っていけたらと思います」



▲地元新聞での連載と、職場の広報紙掲載作品を集めた最初の作品集



▲四国88力所を回りながら、お寺の写真を撮る三坂さん